

栄養管理食品とマッサージを活用した 出張福利厚生ビジネスモデルの創出 事業報告

- モルツウェル株式会社
- 株式会社フロムママ
- 株式会社日本ワイドコミュニケーションズ
- 株式会社テクノプロジェクト
- 塩飽労働衛生コンサルタント事務所

労働安全衛生法改正



ストレスチェック義務付け

(従業員健康管理が必須の時代の幕開け)

島根はIT立県



ITは島根の宝

過酷な労働環境職業ランキングワースト3

- 第1位 大手広告代理店の営業職
- 第2位 IT企業の下請けSE
- 第3位 チェーン飲食店店長





1. 事業概要・相関図

事業概要

島根発！ B to E ビジネスモデル

IT産業をはじめ地域中小企業の抱える課題（**従業員の確保・定着、従業員のモチベーションアップ・生産性の向上**）の解決に向けて、モルツウェルが持つ「食」のソリューションと、フロムママが持つ「癒し&マッサージ」サービスを組み合わせ、新たな福利厚生モデルを構築する。

日経新聞12月9日掲載
読売新聞12月6日掲載
山陰中央12月3日掲載
日日新聞12月6日掲載

NHKしまねっと放映
NHKおはよう中国放映
NKTニュースエブリー放映
BSSテレポート山陰放映



3. 事業の成果

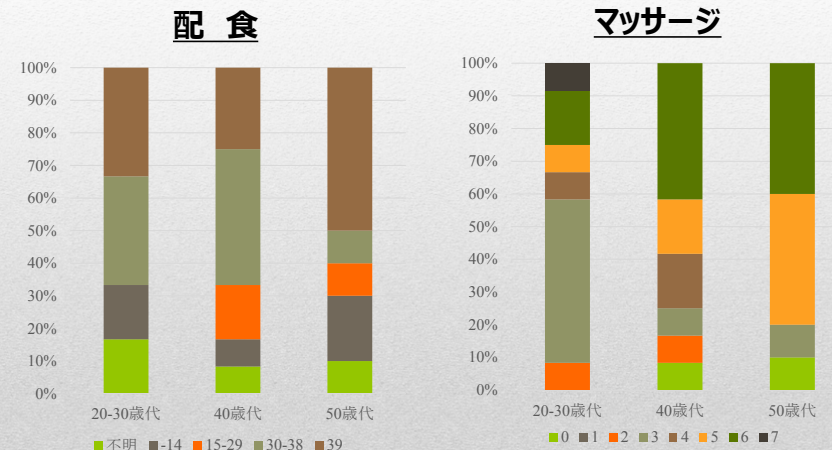
検証方法

□ サービスを受けた人の、サービス前後での**ストレス指標**（「**ストレス簡易調査票**」と「**生活習慣調査票**により集計）で効果判定を行った。

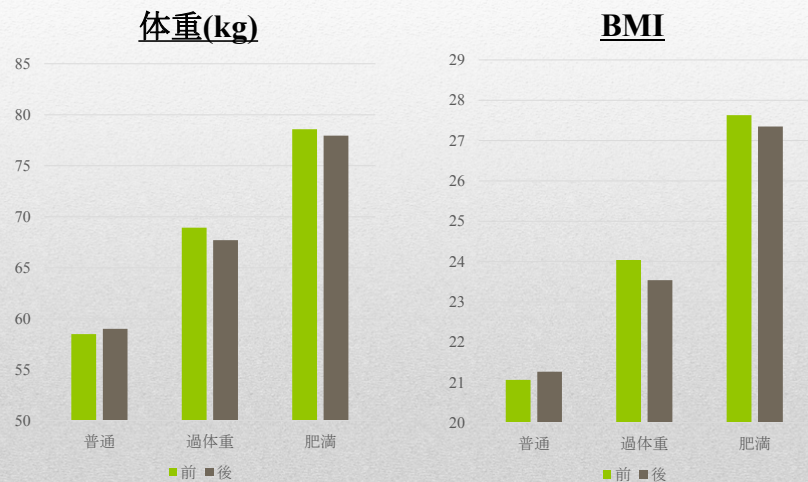
参加者の特性

- **実施期間**
 - 11月-1月の3ヶ月間
- **性**
 - 男性29, 女性5, 計34
- **年齢**
 - 42.3±10.6歳
 - 20-30歳代12, 40歳代12, 50歳代10
- **BMI(肥満度)**
 - 普通(<23)19, 過体重(23-24.9)7, 肥満(>25)8
- **現病歴(治療中)**
 - 高血圧2, 脂質異常症3, 糖尿病0, 高尿酸血症2, 肝臓病0, 胃腸疾患2, がん2(既往)
- **生活習慣**
 - 喫煙歴
 - 喫煙10, 禁煙13, なし10
 - 飲酒歴
 - 飲酒9, 少量20, なし3
 - 定期的な運動
 - あり13, なし21

参加者の特性



サービスによる肥満度別体重変化



*対応あるt検定:P<0.50

利用の多寡による参加者の特性

□ 配食(高利用30/39食以上)

- 性
 - 男性17/29, 女性5/5, 計22/34
- 年齢
 - 20-30歳代8/12, 40歳代8/12, 50歳代8/10
- BMI(肥満度)
 - 普通13/19, 過体重肥満9/15
- 喫煙歴
 - 喫煙7/10, 禁煙6/13, なし8/10
- 飲酒歴
 - 飲酒7/9, 少量11/20, なし2/3
- 定期的な運動
 - あり7/13, なし15/21
- ストレス

□ マッサージ利用(高利用4回以上)

- 性
 - 男性18/29, 女性4/5, 計22/34
- 年齢
 - 20-30歳代5/12, 40歳代9/12, 50歳代8/10
- BMI(肥満度)
 - 普通11/19, 過体重肥満11/15
- 喫煙歴
 - 喫煙6/10, 禁煙9/13, なし7/10
- 飲酒歴
 - 飲酒7/9, 少量13/20, なし2/3
- 定期的な運動
 - あり7/13, なし14/20
- ストレス

X2検定:有意差なし

利用の多寡および肥満度による体重変化

	配食				マッサージ			
	体重前	体重後	BMI前	BMI後	体重前	体重後	BMI前	BMI後
多利用	63.7±11.8	63.7±11.4	23.0±3.1	23.0±2.8	64.3±10.7	63.8±10.0	23.3±3.0	23.1±2.7
低利用	66.8±6.4	66.6±6.4	23.0±2.5	22.9±2.4	65.6±10.1	66.2±10.3*	22.6±2.6	22.7±2.7
サブグループ: 肥満度(普通vs過体重・肥満)								
多・普通	56.9±7.2	57.4±7.3	21.1±1.1	21.3±1.2	57.6±7.6	58.1±7.5	21.1±1.2	21.3±1.2
多・過体重	74.8±8.9	74.0±9.1	26.2±2.6	25.8±2.5	72.4±7.9	70.9±8.2	25.8±2.4	22.2±2.5
低・普通	62.5±6.3	63.2±6.1*	21.0±1.2	21.2±1.2*	59.9±7.0	60.5±7.4*	21.0±0.9	21.2±1.0*
低・過体重	71.1±2.4	70.0±5.1	25.0±1.5	24.5±2.2	75.5±5.5	76.0±6.3*	25.4±2.1	25.5±2.4*

*対応あるt検定:P<0.50

利用の多寡による食行動

(21時過ぎの夕食)

	配食				マッサージ				
	利用前	はい	どちらとも	いいえ	利用前	はい	どちらとも	いいえ	
高利用後*	はい	6	1	2	高利用後*	はい	7	0	2
	どちらとも	3	0	0		どちらとも	4	1	0
	いいえ	0	2	5		いいえ	0	1	5
低利用後	はい	8	0	0	低利用後	はい	7	0	0
	どちらとも	1	1	2		どちらとも	1	0	0
	いいえ	0	0	0		いいえ	0	0	0

*X2検定:P<0.50

結果と考察（1）

- 肥満しやすい正月を含む **11月-1月** に配食とマッサージのサービスを実施した。
 - 参加者は、男性29、女性5の計**34人**で、**平均年齢42.3歳**、肥満度は、普通19、過体重7、肥満8と**やや太り気味の集団**であった。
 - サービス利用は、配食30/37回以上、マッサージ4回以上がいずれも65%であった。
- 3ヶ月間で、**普通群が有意に体重を増加**させたのに対し、**過体重群と肥満群はやや体重を減少**させており、本サービスの**効果があったもの**と考える。

結果と考察（2）

- サービス利用による効果を検証するために、配食またはマッサージ利用の多寡により高利用と低利用に分けて解析を行った。
 - 配食利用による差はみられなかったが、マッサージ利用の低い群で有意に体重が増加し、多利用群では有意ではないが体重を減少させていた。
 - さらに、肥満度を加えて解析したところ、配食・マッサージ低利用の普通群で有意に体重が増え、**過体重・肥満群では体重減少の傾向**を認めた。
 - 利用の多寡による食行動変化（9時過ぎの夕食など）は、配食・マッサージ**高利用群で有意に改善**しており、**勤務中でのこれらのサービスが食行動改善をもたらした**と考えられる。
- 勤務中に食事やマッサージで気分転換することが、**肥満防止に寄与**することが示唆された。

事業で得られた成果

- 検証結果から、**勤務中に食事やマッサージで気分転換することが肥満防止に寄与し、企業の健康経営に役立つサービスだと言える。**

今後の課題

- 今回の検証結果で得られなかった欠勤や休職の減少、それによる人件費の減少等の判定など、**企業として経済効果に寄与していることを明確にするためには、費用負担との比較がさらに必要**である。
- 食事商品の使いやすさや提供時間、マッサージの構成や時間配分など、**会社の福利厚生の方針と個人の満足度のベクトル合せが必要**であり、**費用負担配分も含め再度メニュー提案が必要**である。

今後の事業展開

- 次年度は、持続可能なビジネスモデルとして**有料サービスを開始**すると同時に、企業の経済効果が明らかになるデータ収集を行い、本事業の有効性を実証する。
 - さらに、企業で働く女性を応援する「**買い物支援**」や、楽しみながら運動習慣に導く**地域中小企業連携による「スポーツ等の部活動」の導入**等を複合的に提供し、企業の健康経営に貢献する。
-